

| | | | | |
|----------------|--|-----------|-------------------------|---------|
| 科目名 | 生活と政治 I | 科目分類 | □専門科目群 ■総合科目群 | |
| | | | 全学科 | □必修 ■選択 |
| 英文表記 | Politics I | 開講年次 | ■1年 □2年 □3年 □4年 | |
| | | 開講期間 | ■前期 □後期 □通年 □集中 | |
| ふりがな | なかむら いつはる | 実務家教員担当科目 | 修得単位 | 2単位 |
| 担当者名 | 中村 逸春 | 実施方法 | ■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用 | |
| 授業のテーマ | この授業では、政治学の基礎的概念（権力、政党、官僚制、利益団体、福祉国家など）を中心に学び、政治学の基礎的知識の習得を目指します。 | | | |
| 到達目標 | 第一に、政治学の基礎的知識を習得すること、第二に、習得した基礎知識に基づいて、地域の問題を含む現実政治の諸問題について自分自身で考えられるようになること。 | | | |
| 授業概要 | この授業は、政治学の基礎的な知識を習得することを目的としている。現実の政治現象を理解するためには、政治学の基礎的概念（権力、政党、官僚制、利益団体、福祉国家など）について学ぶことが必要です。また本講義では、国政だけでなく、地方の政治にも焦点をあてます。 | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 第1回 | イントロダクション | | | |
| 第2回 | 政治と権力 | | | |
| 第3回 | 民主政治の様々な仕組み—議院内閣制と大統領制 | | | |
| 第4回 | 議会と代表制—代表の観念、議会の類型 | | | |
| 第5回 | 内閣と官僚制—ウェーバーの官僚制論、官僚のタイプ | | | |
| 第6回 | 選挙制度—日本の選挙制度を中心に | | | |
| 第7回 | 投票行動—社会学モデル、心理学モデル、経済学モデル | | | |
| 第8回 | 政党と政党制—政党の歴史、二大政党制と多党制 | | | |
| 第9回 | 利益団体と利益媒介の諸形態—利益団体の種類、プルーラリズムとコーポラティズム | | | |
| 第10回 | 地方自治—近年の地方分権改革を中心に | | | |
| 第11回 | 福祉国家—エスピン・アンデルセンの3類型、福祉国家をめぐる政治哲学 | | | |
| 第12回 | 国際関係—リアリズムとリベラリズム、グローバリズムとリージョナリズム | | | |
| 第13回 | 20世紀の民主政治論—全体主義の経験との関係に注目して | | | |
| 第14回 | 近年の民主政治論—参加民主主義、多文化主義、討議民主主義 | | | |
| 第15回 | 日本の政治 | | | |
| 第16回 | 定期試験 | | | |
| 授業時間外の学習 | 政治学を学ぶにあたっては、政治に関する基本的な情報がある程度知っていることが求められるため、新聞等の記事に日々目を通しておくこと。(2.0時間程度) 何度か簡単な小テストを行うので、次回の講義までにノートやレジュメを読み返し、復習しておくこと。(2.0時間程度) | | | |
| 履修条件 受講のルール | 講義中の私語は禁じます(退出を求める場合があります)。 | | | |
| テキスト | 教科書は指定しません。 | | | |
| 参考文献・資料 | 川出・谷口『政治学』(東京大学出版会、2012年)、久米・川出・古城・田中・真淵『政治学』(有斐閣、2011年)。その他の参考文献については、その都度紹介します。 | | | |
| 成績評価の方法 | 小テスト(30%)、レポート等(30%)、最終試験(40%)によって、授業内容の理解度をみて評価します。 ※なお、出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 | | | |

| | |
|-------------------|--|
| オフィスアワー | 木曜・金曜 14:00～15:30 (これ以外の時間帯に面会を求める場合は、メール等で事前にアポをとること) |
| 成績評価基準 | 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) |
| 実務経験及び実務を活かした授業内容 | |
| 学生へのメッセージ | この授業は「政治学」への入門的授業です。政治に関心がある人だけでなく、経済や社会に興味がある人にもお勧めです。なお、政治学は公務員試験の科目になっています。 |